

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平 1-68377

⑤ Int. Cl. 4
B 66 B 13/30

識別記号 庁内整理番号
H-6662-3F

④ 公開 平成 1 年 (1989) 5 月 2 日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 エレベータの乗場装置

⑮ 実 願 昭 62-163996

⑯ 出 願 昭 62(1987)10月27日

⑰ 考 案 者 浅 野 隆 史 大阪府茨木市庄 1 丁目 28 番 10 号 フジテック株式会社内
⑱ 出 願 人 フジテック株式会社 大阪府茨木市庄 1 丁目 28 番 10 号

明 細 書

1. 考案の名称

エレベータの乗場装置

2. 実用新案登録請求の範囲

敷居と三方枠と乗場扉とが一体に構成された乗場ユニット装置において、

前記三方枠の左右側面には、奥行き方向に取手と複数の前記乗場ユニット装置を積み重ねて相互に連結できる連結装置とを設けたことを特徴とするエレベータの乗場装置。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は現場への輸送及び現場での運搬据付作業に便利なエレベータの乗場装置に関するものである。

〔従来技術〕

一般に、エレベータの乗場装置は第2図に示すように、敷居1と幕板2a及び戸袋2bを備えた三方枠2と乗場扉3とで構成され、通常敷居1を建物の開口部に取付けてから、三方枠2を敷居1

上に据付け、その後乗場扉 3 を三方枠 2 の上枠に吊り下げるようにして取付けて建物に据付けているが、最近では据付工数の短縮化のために、工場ですみ敷居 1、三方枠 2 及び乗場扉 3 が組み立てられ一体となった乗場ユニット装置を現場に搬入して、それを建物に据付けるように変わってきている。

〔考案が解決しようとする問題点〕

このような乗場ユニット装置であれば乗場ユニット装置を構成する部品や装置のお互いの取付調整自体については工場です簡単に調整が行えるため、現場での調整が不要になる分、現場での作業効率が向上するが、一体に構成された乗場ユニット装置を複数個一度に輸送したり、現場での搬入時に狭い通路を人手により運んだりするには、乗場ユニット装置は却って不便となる場合があり、この点の配慮が今まであまりなされていなかった。

本考案は上記の点に鑑みなされたもので、現場への輸送及び現場での搬入据付作業のしやすいエレベータの乗場装置を提供することを目的とする。





〔問題点を解決するための手段〕

本考案は、多数の乗場ユニット装置を一度に輸送する際に便利のように連結装置と、きわめて狭い現場の通路であっても人手により運搬しやすいように、立てた状態のまま運べる取手を乗場ユニット装置に設けたものである。

〔実施例〕

以下、図面を用いて本考案装置の一実施例について説明する。

第1図は本考案に係る乗場ユニット装置の正面図、第3図は第1図のⅠ－Ⅰ線矢視図、第4図は第1図のⅡ－Ⅱ線矢視図、第5図は第4図のⅢ－Ⅲ線矢視図、第6図は第4図のⅣ－Ⅳ線矢視図、第7図は本考案による乗場装置が建物に据付けられた状態を示す平面図であり、図中11は敷居、12は幕板12a及び戸袋12bを備えた三方枠、13は乗場扉、14は乗場インジケータ、15は乗場押釦、16は折れ曲がった形状の2枚のブラケット16a、16bがボルト16c及びナット16dにより背中合わせに係合された連結装置で、

第 1 図及び第 5 図に示すように、連結装置 1 6 (連結装置 1 6 ' も同じ構造) のブラケット 1 6 a と 1 6 b の間に三方棒 1 2 の左右両側面の切り欠き部を挿入し連結装置 1 6 の一方のボルト 1 6 c により三方棒 1 2 の左右両側面を表裏両側から挟み込むように取外し自在に取付けられている。この連結装置 1 6 , 1 6 ' は複数の乗場ユニット装置 1 0 を一度に輸送する場合には、乗場ユニット装置 1 0 を積み重ねて各ブラケット 1 6 a 相互をボルト等により連結して運搬しやすくするためのものである。次に、1 7 は敷居 1 1 から約 700 mm 程離れた三方棒 1 2 の左右両側面に前述の連結装置 1 6 と同様の取付け方をされた取手で、現場の中の狭い通路であっても、乗場ユニット装置 1 0 を立てた状態のまま人手で運搬できるように、三方棒の両側面に奥行き方向に設けられている。即ち、取手 1 7 は連結装置 1 6 と同じく折れ曲がった形状の 2 枚のブラケット 1 7 a , 1 7 b がボルト 1 7 c 及びナット 1 7 d により背中合わせに係合され、三方棒 1 2 の左右両側部の切欠き部分を



挟みこむように取外し自在に取付けられており、ブラケット 17a には奥行き方向にハンドル 17e が固定されている。そして、乗場ユニット装置を建物の開口部に据付けるときには、予め連結装置 16 を取外した後、取手を持って乗場ユニット装置を立てた状態のまま建物の開口部を塞ぐように設置して、最終的には、取手 17 も取外するとともに、第 7 図に示すようにブラケット 20 を介して建物の壁 21 に固定して据付を完了する。

〔考案の効果〕

以上述べたように本考案によれば、乗場ユニット装置には多数の乗場ユニット装置を連結する連結装置と、運搬時及び据付時に便利な取手が設けられているため、多数の乗場ユニット装置を積み重ねて一度に輸送できるだけでなく、現場での運搬及び据付時には立てた状態のまま行うことができ、狭い場所であっても簡単に行え、据付けた後は連結装置及び取手は取外するため、何度でも使用することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る乗場ユニット装置の正面図、第2図は従来の乗場装置の正面図、第3図は第1図のⅠ－Ⅰ線矢視図、第4図は第1図のⅡ－Ⅱ線矢視図、第5図は第4図のⅢ－Ⅲ線矢視図、第6図は第4図のⅣ－Ⅳ線矢視図、第7図は本考案による乗場装置が建物に据付けられた状態を示す平面図である。

1 1 . . . 敷居

1 2 . . . 三方枠

1 3 . . . 乗場扉

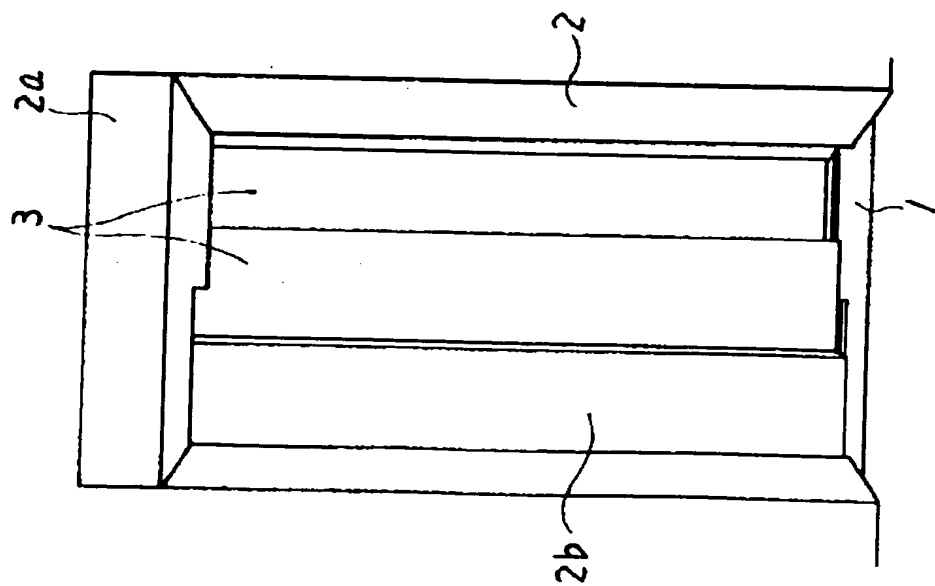
1 0 . . . 乗場ユニット装置

1 6 . . . 連結装置

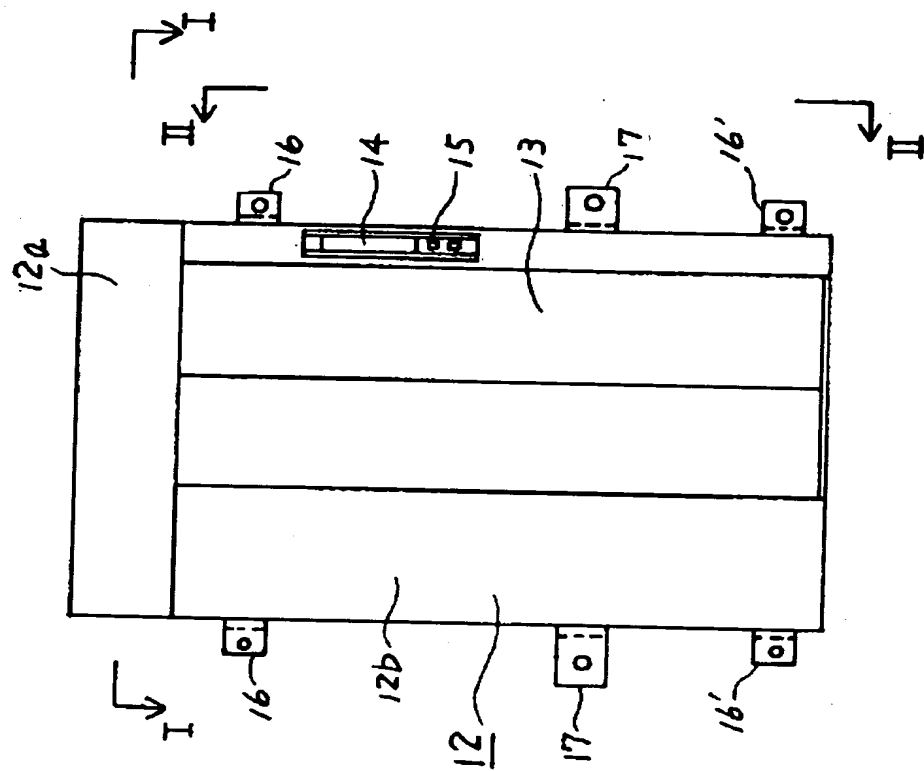
1 7 . . . 取手

実用新案登録出願人 フジテック株式会社





第2図



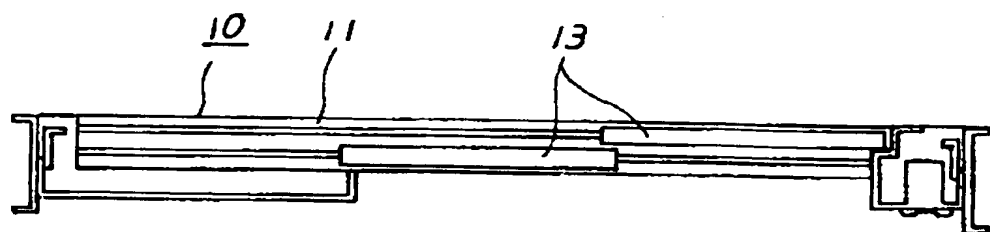
第1図

1049

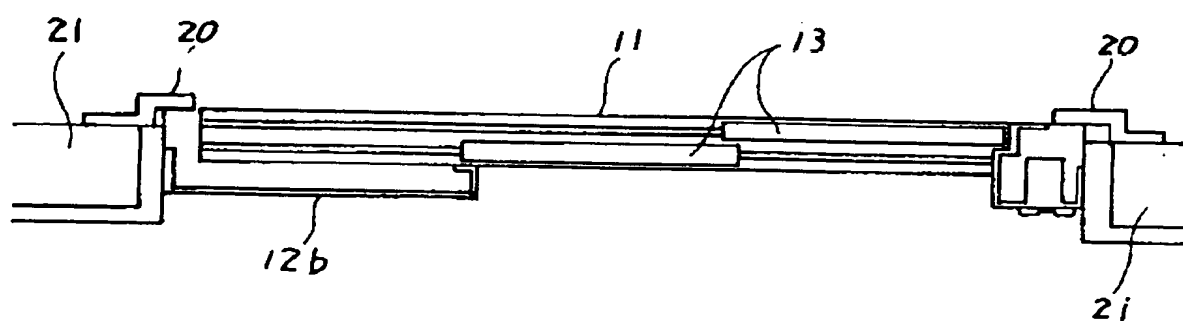
実用新案登録出願人

フジテック株式会社

特許 103377



第 3 図



第 7 図

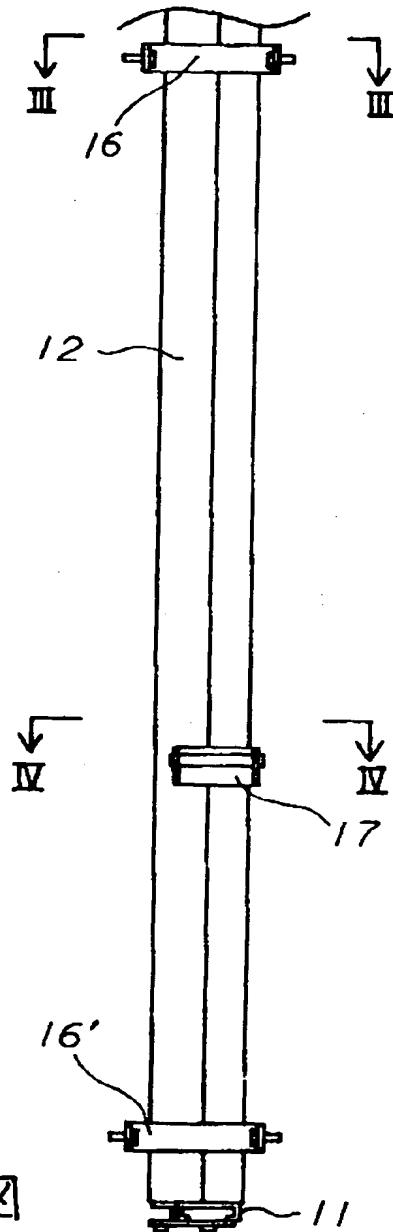
実用新案登録出願人

フジテック株式会社

1050

実開 1-68377





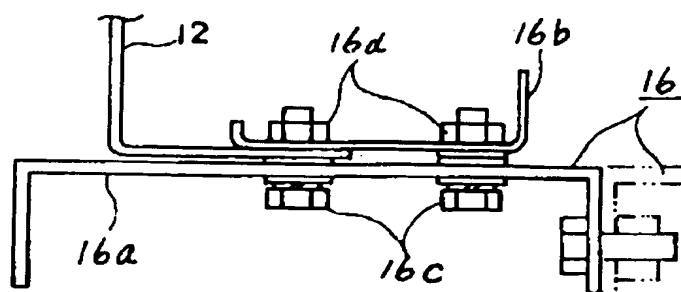
第 4 図



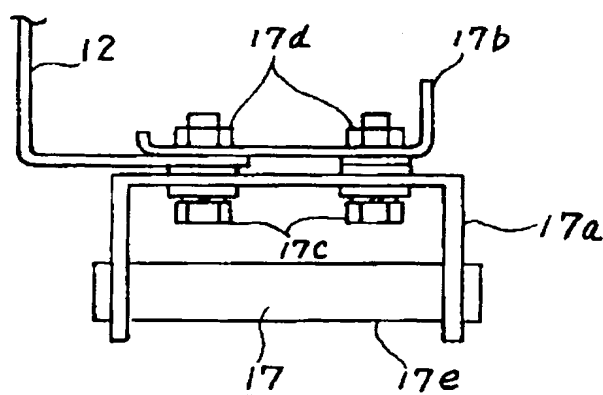
1051

実用新案登録出願人

フジテック株式会社



第 5 図



第 6 図



実用新案登録出願人

フジテック株式会社

1052

公開 1-68377